

<https://www.ibokin.co.jp/>

RE.

USE
BIRTH
OFFER

ANNUAL REPORT 2019

IBOKIN
株式会社イボキン

〒671-1621
兵庫県たつの市揖保川町正條379番地
TEL 0791-72-3531

IBOKIN

For a Limitless Future Filled with Limitless Resources

限りない未来のために。
限りない資源を。

完全循環型社会の実現が持続可能な地球を創る

Index

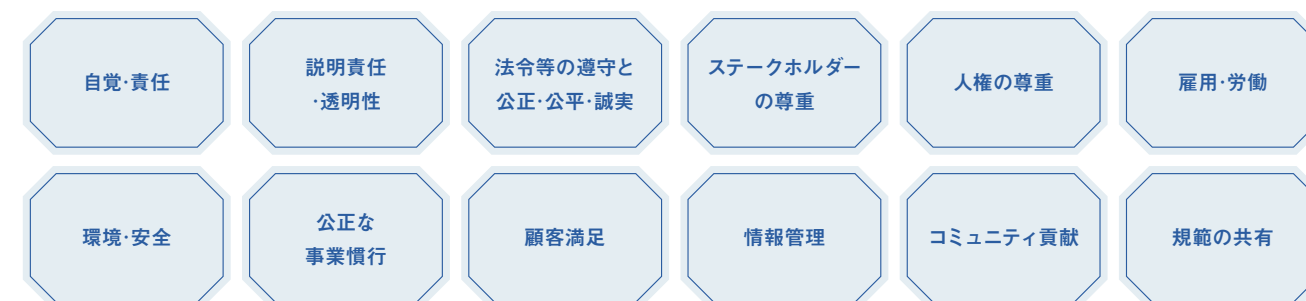
インデックス

P.01	_____	コンセプト・目次
P.03	_____	歴史・沿革
P.05	_____	社長メッセージ
P.07	_____	スペシャル対談
P.09	_____	ビジネスフロー
P.11	_____	事業紹介
P.13	_____	数字でみるIBOKIN
P.15	_____	安全への取り組み
P.19	_____	中長期計画とESG
P.20	_____	SDGs
P.21	_____	取り組みについて
P.25	_____	財務ハイライト
P.26	_____	会社概要 拠点一覧

社会の平和と発展を願い、お客様の喜びと社員の物心両面の幸福を追求する。
そして明るく積極的に活動し、堅実な経営を行う。

- 1 常に明るく感謝の気持ちを持って誠実に徹する。
- 2 仕事を通じ人間性を高め、すべての行動に品格を伴う。
- 3 きょうより今日、今日より明日へと常に改善し創意工夫を重ねる。
- 4 思いやりのある気さくなサービスで、すべての人をお客様として大切にもてなす。
- 5 技術力、ノウハウ、安全性を高め日本を代表する総合リサイクル企業を目指す。

企業行動憲章



History

歴史・沿革

イボキンの「今」。それは積み重ねてきた未来

1949



昭和24年

兵庫県西播磨地区(相生)において
高橋仙吉により、製鉄原料商として創業

戦後、すべての資源が枯渇した中で復興を成し遂げていくためには、再生資源に依存する率が圧倒的に高かった時代背景があります。その中で、再生資源製造業者として社会のニーズに応えようと、製鉄原料商を創業しました。

1973



昭和48年10月

高橋勇史により、高橋商店を設立

従来は鉄くずなどを手作業で選別を行っていましたが、機械を導入し近代経営を目指そうと、高橋商店を設立しました。

1984



昭和59年8月

法人改組し、
揖保川金属株式会社とする

会社が大きくなり、より社会的な信用を得るために法人改組をしました。

1999



平成11年12月

本社工場及び最終処分場について
ISO14001(環境マネジメントシステム)の
認証を取得

平成11年12月に業界としてはいち早くISO14001認証を取得し、以来環境負荷の低減並びに有益な環境側面の拡張に向けて継続的な改善を実践してきました。今後も、処理量の拡大とリサイクル率の向上を目指すとともに、有害な環境側面を軽減し、有益な環境側面を積極的に伸長させ、継続的な改善に取り組んでまいります。

2003



平成15年10月

社名を揖保川金属株式会社から
「株式会社イボキン」に改名

「リサイクルを通じて社会に貢献する」という創業以来の企業使命に基づき廃棄物の中間処理を開始、さらにスクラップ及び廃棄物の発生元である解体工事を競争力強化のため開始し、総合リサイクル事業へと発展させてまいりました。業態も成長とともに拡大し、さらにお客様や地元の皆様からも「イボキンさん」の愛称で呼ばれていたこともあり平成15年に「株式会社イボキン」となりました。

2011



平成23年12月

兵庫県より産業廃棄物収集運搬業、
特別管理産業廃棄物収集運搬業、
産業廃棄物処理業許可証に対し
「優良認定」を取得

お客様に安心して廃棄物の処理をお任せいただけるよう、平成23年12月に「優良認定」を取得しました。
※優良産廃処理業者認定制度は、通常の許可基準よりも厳しい基準に適合した優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。

2015



平成27年6月

全国の優良企業と包括業務提携

保有する経営資源を最大限活用し、事業を通じて持続可能な社会を実現し、かつ事業に関わる関係当事者の幸福に貢献することを目的とし、包括業務提携(リバーホールディングス(株)、(株)エンビプロ・ホールディングス、(株)やまたけ、(株)中特ホールディングス、(株)マテック、(株)青南商事)を行いました。7社は、相互に協力してリーダーシップを発揮し、日本を代表する「リサイクルメジャー」として、資源、エネルギー分野における国家戦略の一翼を担う事業を行うことを目指しています。

2018



平成30年8月

東京証券取引所
JASDAQスタンダード市場へ上場

平成30年8月2日、東京証券取引所JASDAQスタンダード市場に株式を上場いたしました。解体・撤去技術、回収・輸送技術の強化に取り組み、解体から最終処分までを自社で完結できる「ワンストップ・サービス」を今後も提供してまいります。

Message

社長メッセージ

私たちは創業以来70年間一貫して資源リサイクルに取り組んで参りました。

弊社は戦後、国全体がまだ貧しい中で生きていくために始めた小さな家業でしたが、日本の高度経済成長に伴い蓄積された世界第3位の都市鉱山を循環させることが国の工業への貢献に繋がるという自負を持って、現在まで事業を継続発展させてきました。

以前はメーカーなどの動脈産業に比べ、私たちの静脈産業はあくまでも後片づけのような目立たない産業でしたが、現在深刻な問題である気候変動問題や世界的なテーマである持続可能な社会づくりのためにSDGsやESGの考え方が世の中に定着しつつあり、その中で私たちリサイクル産業が担うべき役割は非常に大きいと思います。

現在弊社はまだまだ道の途中であり、やっとスタート地点に立ったという状況ですが、持続可能な社会のために自分たちの出来ることは何かを本気で追求し、熱意溢れる社員たちと共にこれからさらに社会のお役に立てるように努力してまいります。

日本の国内に膨大にストックされた構築物(ビル、プラント、大型装置等)に含まれる都市資源は膨大であり、その都市鉱山を安全かつ適切に抽出し、再び資源として循環させることによるエネルギー削減効果はとて大きく、まさに今世界が直面している気候変動問題の解決の一役を担うという信念のもとに、社員全員が一致団結し、さらなる事業活動に邁進してまいります。

代表取締役社長 高橋 克実

Katsumi takahashi

持続可能な未来は 私たち資源循環産業から



スペシャル対談

高橋社長：鈴木会長とは公私ともに非常に親しくさせていただいており、家族旅行でも度々お宅に行かせていただいています。富士山が一望できるともいい所なんですよ。会長は私がこの業界に入った当時の鉄リサイクル協会会長でもあり、長年に渡り多大なるご指導を受けて参りました。

「知識」ではなく、一人の人間として判断し、
会社を経営してゆく

高橋社長：会長、改めて上場*おめでとうございます。長年語り合ってきたことが徐々に実現しつつありますね。会長の考える日本のリサイクル業界のあるべきビジョンはずっと一貫しており、私も共感しながら今までやって参りました。思いの力を大切にすると会長にとっての経営理念とはなんでしょうか？（※2020年3月 東京証券取引所市場第二部へ上場）

鈴木会長：33年前に社長になった時、「社長」というのは何をやらねばいいのかと思い、本を読んだり講習会に参加したり沢山勉強をしましたが、最終的に思ったことがあります。それは自分が考えて正しいと思ったこと、自分の考えで経営するべきだということです。

幼少期の経験から学んだことは
「自分で考えること」の大切さ

高橋社長：会長は自分で考えられたことを外に向かって常々表現されていますよね。何かその感性のベースになった出来事や経験があったのでしょうか？

鈴木会長：小さい頃、喘息の為に田舎で長期療養していたことがあり、長い時間を一人で過ごしました。一人で色んなことを考える習慣が身に付き、興味を持ったものに対してはとことん知りたいたいと思い、500種類くらい蛾を集めたこともありますよ。そのような幼少期時代が今の考え方や感性に繋がっているのだと思います。

高橋社長：次から次へと興味が湧いてくる、非常に好奇心が旺盛だったんですね。好奇心のない人間に「好奇心を持って」というのも難しいと思います。

鈴木会長：好奇心は非常に重要なことです。人間は興味を持ったものにしかエネルギーを注ぐことができません。使命感や責任感と同じで、「何の使命だ？」と考え続けていると「こと」の本質に迫ることができると思います。

高橋社長：なるほど。自分の中で深掘りしていくことは本当に大切なことですね。会長は幼少期の体験からその大切さを実感されてきたんですね。

人間が豊かさを追求した結果、
世界は持続可能ではないところまで来てしまった、
という危機感

鈴木会長：「鉄スクラップ業」が成り立つのは、製鉄の近代化が進み、モノが豊かになって捨てられるようになったごく最近のことです。昔は資源が乏しく、あらゆるものを資源として再利用していました。江戸時代が「完璧なリサイクル社会」と言われるように。私は時代の変化を興味深く見ていますが、環境も常に変化し、一時として同じ状況はありません。大きな変化があると皆ジタバタしてそれに対応しようとしませんが、実はその前に世の中が気付かない静かな変化が起きている段階があります。これは本質的な変化で、次が変わっていく一つ前のステップ。私はそれが今だと思っていますよ。

高橋社長：2000年は相場が極端に低迷しましたし、2000年、2010年、2020年と…10年ごとに様々な変化が起こってきましたね。



リバーホールディングス株式会社 会長

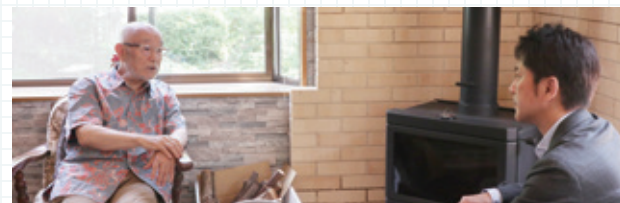
株式会社イボキン 社長

鈴木孝雄氏 × 高橋克実氏



鈴木会長：そうですね。循環型社会形成推進基本法が2000年に制定され、日本では既にその段階で「持続可能な社会を作る」という宣言がされました。20世紀の一番大きな変化は近代製造業。産業革命が行われ機械化による大量生産が始まり、それによって物質的には凄く豊かになりました。あらゆるものが発達し、人間界が広がり、人口も増える。しかしそれは何を意味するかというと、自然界が縮まるということです。ものを作ることによって、自然界のバランスを崩すまでに自然を損ないました。

例えばアマゾンでは、「森林伐採は制限しなくていい」という意見もあります。アマゾンの森林は大量のCO₂を吸収し、自然環境に貢献しています。一方でそこに住む人々の経済活動を支える為には、森林を伐採した方がお金になるという理論です。自然環境や経済活動をトータルで見ると、もう持続性が維持できないところまで来ていると思います。20世紀は地下資源を大量に使って製品化し、それを様々なものを使って発展してきました。しかし、その資源も有限であり、製造過程で排出されるCO₂が原因で地球の温暖化が明らかに進行しています。一部の科学者の仮定では、2030年までに気温があと1.5度上がったら、温暖化が急激に進み恒常的に温度が上がり続ける。その分岐点があと10年ではないかという説を出しているんですよ。大変恐ろしいことに。

持続可能な社会を作るという大きな課題に対して、
リサイクル業界が掲げるべき戦略

高橋社長：私は仕事柄、環境問題には関心が高いのですが、一般的には温暖化が進むとしても、目の前の自分たちのお金儲けの方が大事と考える人が現状ではまだ圧倒的に多い気がします。

鈴木会長：若い世代を中心に環境問題に関心を持つ人が増え始めたことも確かです。「持続可能な社会を目指す」という皆の意識を変える為には、説得力、発言力、皆に影響力を及ぼすことができる集団を作らないといけませんね。

高橋社長：私の周りにも、SDGsを意識してなんとか世の中を変えたいと思っている業界の仲間が沢山います。それでも中小企業の集まりで社会的なインパクトはまだ少なく、社会に提言できる力を個々の会社で、と考えたら課題が大きすぎて間に合わないような気がしますよね。

鈴木会長：やっぱり声をあげて、社会に影響を与える形で発言できるように一定のボリュームを作らないといけない。実現する為には自分たちを大きくすることも大切だし、社会的な発言ができ、影響力を確保できるまとまった勢力を早急に作る必要があると思います。

高橋社長：単体でやっていたら30年かけても実現できないかもしれません。しかし共同体でプライマリーなベースを作って、そこが日本一だと言えるくらいになれば、おそらく世界において技術的にもコンプライアンス上でも3本の指に入るくらいにはなれると思うんです。

鈴木会長：そうですね。どういう形だったら個々の要求も満足させて社会的な発言力を持った集団ができるのか。考えたら絶対にいくつかの答えは出てきます。もう今は「俺だ俺だ」ってやっている時代ではないですよ。さらに規模と同時に質も追求していかなければいけません。

静脈産業である我々のリサイクル業こそが、
持続可能な社会へのキーポイントに

鈴木会長：持続的な社会を実現する為には、まさに「静脈産業」が重要な役割を担っています。我々の「廃棄されたものを資源化する」という仕事こそが社会の持続性を助けるんですから。日本は資源に乏しい国ですが、人工資源が山ほど溜まっています。これをきちんとした資源として再構築していくことは非常に重要であって、日本の生きる道の一つなんです。「循環型社会」という言葉がありますが、動脈と静脈が同じレベルで出来上がっていないと循環の仕様がなくなります。

高橋社長：本当におっしゃる通りだと思います。現状の日本の静脈産業は、例えるなら毛細血管で、さらにそれが繋がっておらず、地域ごとで切れているんですよ。

鈴木会長：あらゆるものを再度資源化する、そういう実力を持った集団を広いネットワークで日本に作りたいですね。

志を同じくする人と、
パートナーとしてこの大きな課題に挑んでゆきたい

高橋社長：先ほどからお話しいただいた持続可能な社会を実現する為の「垣根を超えた共同体」を作るにあたって、そのパートナーに求める条件とは何でしょうか。

鈴木会長：同じ「思い」を持った人ですね。やはりこの仕事はあらゆる枠組みの人たちが、その立場に応じてできることをやっていくことが大切。この「静脈産業」は利益追及だけじゃなくて、日本全体が循環型社会を作る為に色んな会社が共同で仕事をすべきだと思うんです。志を同じくする仲間と共同で仕事をすることによってより高度な循環型社会ができると思っている人と、やっぱり一緒にこの課題に挑みたいですね。



Business Flow

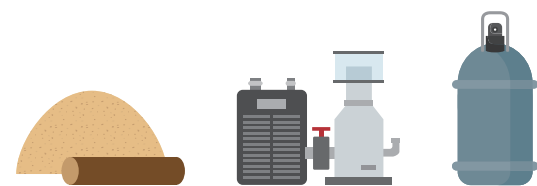
ビジネスフロー

快適に、最適にリサイクル
そして安心をお届けする企業を目指して

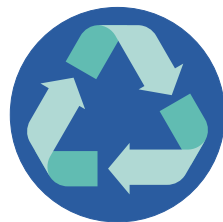
かけがえない財産である豊富な都市資源をイボキングループの技術(解体・分離・選別・加工・流通)で、高品質な資源へと再生し日本を代表する総合リサイクル企業へと成長していきます。

IBOKIN

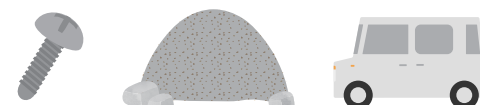
環境事業部 P11



木くず・紙くず・ガラスくず・フロン・
廃プラスチック・金属系廃棄物など



金属事業部 P12



鉄スクラップ(鉄・銅・アルミなど)や
家電や廃自動車などの機械

選別・加工を施した後、
再生資源へ

運輸部門 P12



マテリアルメーカー



IBOKINから
各マテリアルメーカーに
再生資源を納品

廃棄物を
IBOKINへ

製造過程
において発生した
廃材など

製造メーカー



廃棄物を企業からIBOKINへ

解体事業部 P11



日常の暮らし



再生資源によって
作られた
日用品が消費者へ

ペットボトルや缶、
瓶、家電、廃自動車などを
回収

企業





解体事業

Dismantling

あらゆる建築構造物を解体・撤去し、その後解体工事現場で発生する瓦礫などの産業廃棄物を自社の中間処理工場に持ち帰り選別・加工を施すことによって、建築資材などの再生資源として蘇らせてリサイクルします。また、鉄や非鉄などの金属類は別途自社の金属加工工場に持ち帰り選別・加工を行い、金属再生資源として循環させます。当社の環境事業及び金属事業とのシナジーを活かしたサービス提供を行っています。バックアップとしての環境保全機能を持つことによって、顧客に対する広範な安心・安全という付加価値を提供しています。解体事業は、当社グループの成長戦略のエンジンであり、市場規模の拡大に応じて陣容を拡大させていきます。



解体事例

- 大型プラント
- 機械設備 ■ 鉄骨造
- 鉄筋コンクリート造
- 木造
- 飛散性アスベスト除去
- 石綿含有建材除去

解体事業のポイント

「自社施工チームの技術力」

2018年6月よりイボキン社内に施工チームを立ち上げ、重機やガスが使用できないクリーンな環境の中で油圧式の門型クレーンを組み立ててバランスを計算しながら精緻に解体し、屋外に搬出していくなど特殊な環境の中で行う大型医療機器や産業機械の解体及び撤去案件も社内で施工しています。搬出物の特性に応じて柔軟に対応し、搬出・撤去・再資源化までの一連の業務をワンストップでサポートしています。



金属事業

Metal Recycling

1973年当社設立以来46年にわたる事業で、当社の安定経営の基盤となっています。様々な産業活動から発生する鉄や非鉄の金属スクラップを発生元から仕入れて、自社工場にて選別・加工し、付加価値を高めた状態で電炉など鉄鋼メーカーに出荷します。そうすることによって、100%リサイクルを達成しています。また、金属事業の売上高は相場変動による影響を受けますが、仕入から販売までの加工工数を短縮することで、相場変動の影響を最小限に抑える事業運営を推進しています。



鉄・非鉄の取り扱い品

- アルミ ■ ニッケル ■ 亜鉛
- 銅 ■ 貴金属メッキ ■ 電線
- 銅板 ■ 真鍮
- 機械 ■ プラスチック
- 自動車

設備

- ギロチンシャー
- ラバンティシャー
- 三方プレス
- シュレッダー
- カタンシャー
- 新断プレス



環境事業

Environment Recycling

環境事業は、産業廃棄物収集運搬及び中間処理並びに再生資源販売を中心に事業を展開しています。製造業、建設業の顧客から、生産工程や建設現場から発生する廃棄物や使用済みになった機械類などを自社運輸部門が収集するほか、当社工場にて受け入れを行い、選別・加工を施した後、再生資源として販売しています。近年、小型電子機器や家庭用電気製品などの金属系産業廃棄物のリサイクルに対するニーズが高まる中、2019年、本社工場の大型破碎選別機を最新鋭の設備に更新しました。この設備の導入により、排出事業者様のニーズにお応えするとともに、環境保全に対する社会的責任を果たしていきます。



リサイクル対応物

- | | |
|------------------|------------------|
| 本
社
工
場 | ■ 廃プラスチック類 ■ 紙くず |
| | ■ 木くず ■ 繊維くず |
| | ■ ゴムくず ■ 金属くず |
| | ■ ガラスくず等 ■ 鋳さい |
| | ■ がれき類 |

- | | |
|-----------------------|------------|
| 阪
神
事
業
所 | ■ 廃プラスチック類 |
| | ■ 紙くず |
| | ■ 木くず |
| | ■ 金属くず |
| | ■ ガラスくず等 |

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 最
終
処
分
場 | ■ 廃プラスチック類 |
| | ■ ゴムくず ■ 金属くず |
| | ■ ガラスくず等 |
| | ■ がれき類 |



運輸部門

Transportation

近畿・中国エリア全府県の産業廃棄物収集運搬業許可を取得するとともに、一般貨物自動車運送許可を取得しています。約55台保有する車両から状況に応じて適切な車両を選定して配車します。産業廃棄物収集運搬のプロは貨物運送のプロでなければならないという信念のもと、先端的EMS(エコドライブ管理システム)普及事業への参画、安全性優良事業所の取得、ISO14001マネジメントシステムによる環境負荷軽減の継続的改善を推進しています。プロによる安全、安心の運搬をお約束します。



運輸事業のポイント

当社運輸部はGマークの認定を受けています。

Gマークは事業者の安全性を正当に評価し、認定し、公表する制度であり、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関である公益社団法人全日本トラック協会による厳しい評価をクリアした安全性優良事業所のみに与えられる安全・安心・信頼の証です。

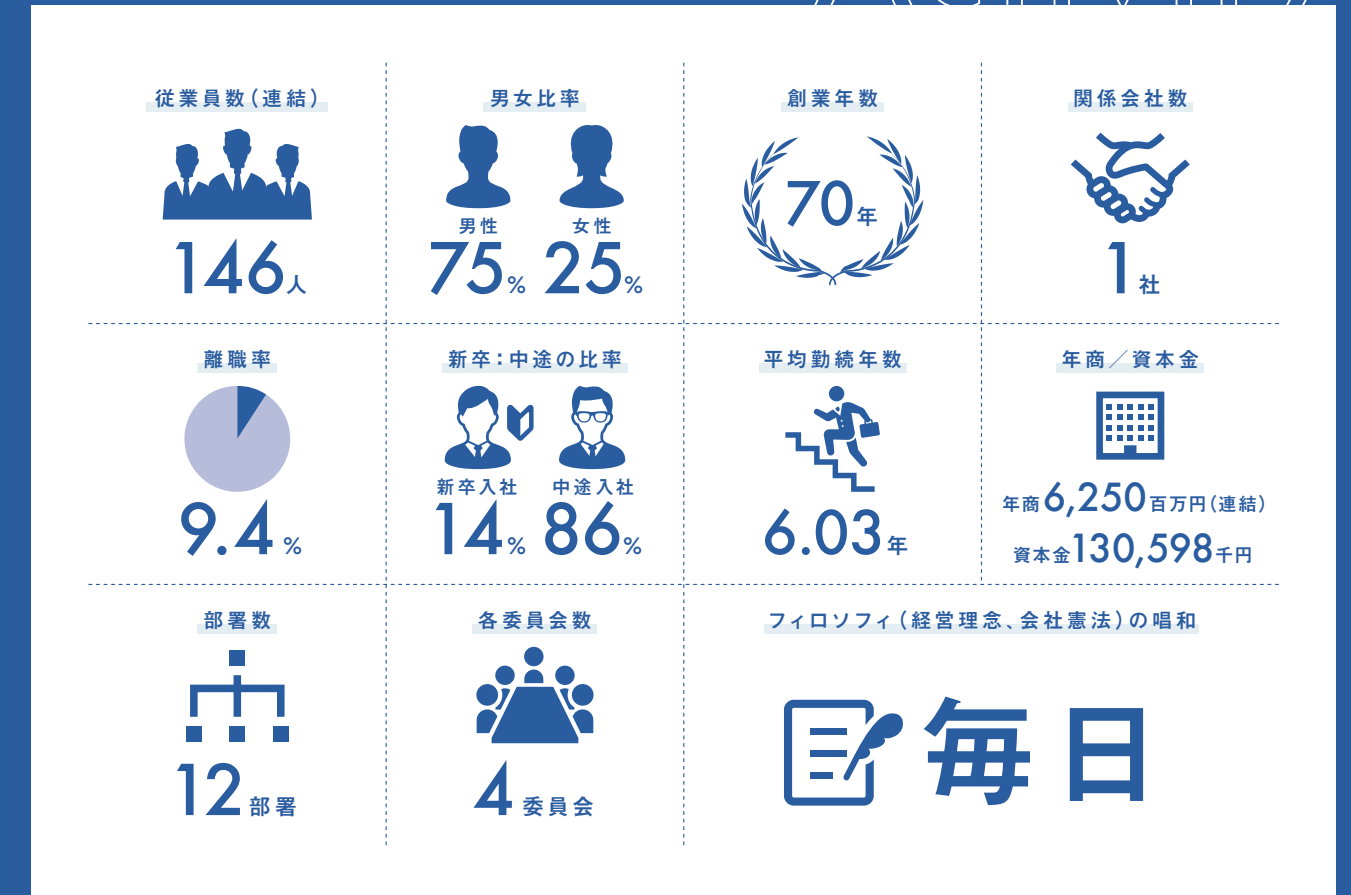


事業を表す数字



企業活動を表す数字

Activity



持続可能性を表す数字



当たり前だからこそ、 最重要と掲げる「安全」への意識

橋本顧問がイボキンに関わるようになった きっかけを教えてください。

橋本顧問:イボキンは、上場したことにより企業の社会的責任という観点から、安全に対し今まで以上に注力して事業活動を行わなければならないという強い想いがあり、そんななか、長年安全に関わる業務に従事してきた経験が見込まれ、声を掛けていただいたことがきっかけです。実際に改善できる箇所が多くあり、社員と会話する中で、「良い方向に革新していくことができる」という印象を抱き、2019年3月より外部顧問を引き受けさせていただきました。



就任後まずどのような取り組みをされましたか？

橋本顧問:当社の事業は、解体・環境・金属とどれをとっても危険な作業を伴います。なかでも解体事業は、一歩間違えば重大災害に繋がりがねないことから、現場を熟知している高橋社長の想いを受け、まず初めに取り組みました。
寺田氏:具体的には、解体工事現場の安全パトロールの回数を増やすなどして強化を行いました。解体現場では、出入りする業者も多く作業内容が日々変化していくため、その変化に対応する必要がありますが、大事なことを見落としがちです。そこで、経験豊富な橋本顧問の目から見た指摘や指導を行っていただきました。また、環境事業や金属事業における工場では、原点に立ち返り、法令で定められている安全に関する事項について、今行っている作業に問題はないか確認していきました。

パトロールの具体的な内容を教えてください。

橋本顧問:現場を見て、法律的にあるべき姿かという点と、実際に事故が起きたらどうなるのかという観点でパトロールしています。例えば、解体工事現場でビルやプラントを解体する場合、大型クレーンを使用しますが、クレーン

ン作業中の事故は大変多いです。特に荷物を吊り上げる瞬間を「地切り」といいますが、その瞬間が一番危ないので、作業しているクレーンには「近づかない」「下に行かない」ことをあらかじめ伝え、さらに現場でもパトロールを行い、実際に危険な行動があれば常に指導をしています。



寺田室長と橋本顧問は どのように連携されているのですか？

寺田氏:もちろん常に話し合っております。
橋本顧問:お互いに気づいたことを共有しないと、未来の安全を確保できないと思います。
寺田氏:例えば、解体工事部の若手現場監督への安全教育の必要性などについても橋本顧問に相談し、高所作業などの危険な作業に関する講習を実施していただいています。

その他実施された 講習について教えてください。

橋本顧問:新入社員や中途入社の方への講習はもちろん、安全管理者向けに法律を踏まえた内容を中心とした講習、専門的な知識を要する解体工事部の現場監督職の講習など、社員一人ひとりに対して1回2〜3時間の講習を年に4回程度行っています。また、管理者向けのコーチングなどの講習も実施しました。安全だけに特化するのではなく安全をキーにしてトータルで人材の教育指導ができることをモットーとしています。
寺田氏:例えば、尼崎市にある阪神事業所は、本社から距離的に離れているのでコミュニケーションが取りにくい状況が生まれがちです。橋本顧問はコーチングやアンガーマネジメントなどの知識も豊富でいらっしゃるの、一緒に一人ずつ面談を行うことで、以前より会話を増やし、現場での悩みなどを吸い上げて、日ごろの不安などを解消するようにしています。
橋本顧問:やはりコミュニケーションが一番です。目を見て話すことで相手を理解し、それにあった教育を行っています。

コミュニケーションから 何を導きますか？

橋本顧問:コミュニケーションの取り方は人によって様々なので、私が特に意識し心掛けていることは、法律を守ってもらうためにはどのようにすればよいのか、安全意識レベルを上げるには何を必要があるかを考え、その人自身に「行動してもらう」コミュニケーションを取るようにしています。またその時に、法律を噛み砕いて、「災害が起きれば、家族が悲しむことになる」というその人自身の身近なシチュエーションに落とし込んで話すように心掛けています。
寺田氏:安全を自分のこととして考えてくれる人の育成を今よりも強化していくことが必要かと思います。安全管理者もそうですが、それに続く一個人が私たちと同じレベルで安全を考えるように育成することが課題です。その次は、一緒に安全について考えていければと思います。



安全に対する意識付けのために どのような取り組みをされていますか？

寺田氏:安全に終わりはなく、「慣れ」や「当たり前」という各人の意識が災害を引き起こす要因になることがほとんどです。そういったマンネリ化を防ぐために、朝礼で安全衛生委員会からの注意喚起を行っています。
橋本顧問:人間には考えて行動する場合と、とっさに行動する場合があります。事故・災害が起きる時は後者の場合が多く、習慣となっている行動から起きることがほとんどです。普段の何気ない行動一つひとつをルール化し遵守していくことで安全の確保を着実にしていければと考えます。「安全文化」とは、人が見なくても見なくても同じ行動ができる、ということ。それができるように指導することが我々の仕事です。そのためには時間を要しますが、日々意識をし、それを習慣にできるようにしています。
寺田氏:また、実際に災害が発生した場合には、本人から状況報告をもとに部門内で当日中に安全対策会議を開催しています。橋本顧問に報告書の内容や対策が十分かどうか、本人からの災害時の状況を聴取したり、現場を検証するなかで安全に対する考え方や知識などを直接指導していただいています。このような取り組みを継続的に行うことで、現在は無災害日数を継続して更新しています。

安全の取り組み開始から1年経ち、 どのような変化を感じられますか？

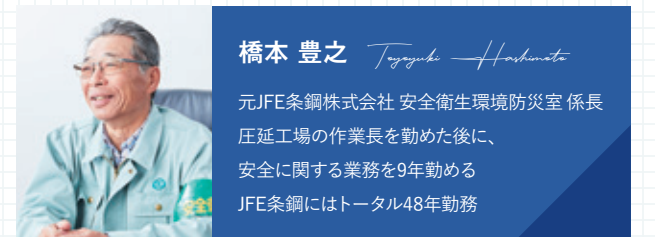
寺田氏:月に一度開催している安全衛生委員会です以前より意識の高い意見が出ているという実感があり、徐々にですが良い方向に進んでいると感じています。
橋本顧問:安全は意識のみならず費用も掛かりますが、設備導入の際には効率だけではなく安全対策も考慮しながら検討するようになってきました。100%の安全は難しいかもしれませんが、リスクをゼロにすることはできていると思っています。なかでも一番難しい「人の意識を変えること」を徐々にでも変革できればと思います。安全は、結果は見えるが予測はできないので、1秒先が安全かどうかはわかりません。安全は終わりがありませんが、これからも突き詰めていきたいと思っています。

今後の取り組みについて教えてください。

橋本顧問:現在、すでにある作業手順書を基に、安全に関する記述を取り入れたルール作りをしています。これを元に社員教育を行い、社員一人ひとりの安全への意識が高まることを期待しています。
寺田氏:注意喚起や情報共有をさらに進めていくために安全掲示板を見直しています。当社で働くすべての方や、廃棄物の運搬・持込業者様などが折に触れ目にいただくことで、場内での安全を確保できるように取り組んでいきたいと思っています。



Profile



Safe service at a safe site.

安全な現場で、安心なサービスを。

解体事業

安全・安心のために、当社では危険予知活動、5S活動、安全大会など、社員全員が安全について再認識を行う活動をしています。



Initiative 1 危険予知活動

当社解体事業では、災害防止の取り組みとして全解体工事現場での危険予知活動に重きを置き作業所ごとに徹底して行っています。老朽化したプラント、設備は危害が発生していかなくても作業を行う上で潜在的な危険性や有害性が存在していることがあります。これらが放置されている場合、労働災害が発生する可能性が高い状態であるといえます。現在では法的にもリスクアセスメントが義務化されていますが、当社解体工事現場においては、現場管理者と作業従事者にて日ごとの作業に対し特有の危険性を洗い出し、自主的に職場の潜在的な危険性や有害性を見つけ出し、事前に的確な対策を講ずることを基本行動とし、事故災害のない安全安心な工事を提供できるように取り組んでいます。

Initiative 2 5S活動

当社解体事業では職場環境の維持・改善のための5S活動を実施しています。職場環境の維持・改善のための徹底されるべき5つの事項として、整理(SEIRI)、整頓(SEITON)、清掃(SEISOU)、清潔(SEIKETSU)、習慣(SYUUKAN)をスローガンに定め、計画的に実施することにより、作業所におけるムダを削除し安全性を向上させています。必要ないものが本来あるべきでない場所にあることは、事故に繋がる恐れもあります。5Sを徹底して環境を整えることで高い生産性を維持し、安全な組織を作り上げられるよう取り組んでいます。



Initiative 3 安全大会

当社では年度ごとに、安全衛生委員会による安全で健康・快適な職場作り意識の高揚を図ることを目的とした安全大会を実施しており、労働災害防止における1年間の安全管理活動を報告するとともに年度における活動方針を発表しています。過去に発生した事故事例、ヒヤリハットとその再発防止対策、改善報告を全社で共有し、ゼロ災害を達成するための新たな目標・取り組み・対策などを全社で共有することにより、より安全な職場環境を目指しています。安全大会においては当社の中でも特に優秀な事業場、担当者には表彰もあり一人ひとりのモチベーションアップも図りながら、事業全体の安全な職場環境の維持改善にも努めています。



運輸部門

社員の安全確保を目的とした取り組みを行っており、これからも事故・災害ゼロを目指して取り組んでいきます。



Initiative 1 車両日常点検・整備

車が安全に走行するためには、日頃から車を点検整備しておく必要があります。特に故障の早期発見に繋がる日常点検は重要です。整備不良による事故やトラブルの発生を未然に防ぐとともに、環境負担の軽減に繋がります。ほんのわずかな点検で、事故は未然に防ぐことができるので、日常点検をしっかりと行うようにしています。

Initiative 2 ドライブレコーダーの活用

運転中の映像や音声を記録するドライブレコーダーをトラック全車に装着し、常時録画をしています。定期的に録画した映像を検証して日々の運転状況や運転特性を把握し、より安全な走行ができるよう指導しています。参考になるドライブレコーダーの映像は部内で共有し、安全対策を講じています。また、環境面においても、高速道路での速度のムラや交差点などでの停車時のアイドリングストップをアドバイスしてくれるので、燃費向上が可能になりました。安全機器の導入実績によるCS(顧客満足度)の向上と実際の事故発生時における検証及び証拠にも役立っています。急発進、急加速、急減速を管理して安全指導をすることにより、エコドライブ・安全運転、急発進・急減速による荷物の傷みなどを防ぐ品質保証への意識を強めています。通常の効果に加え、運行ルートの管理や検討を行い、最適ルートを分析することにより、更なるエコドライブへの取り組みを行い輸送サービスの品質アップにも繋がっています。



※ドライブレコーダー、確認画面



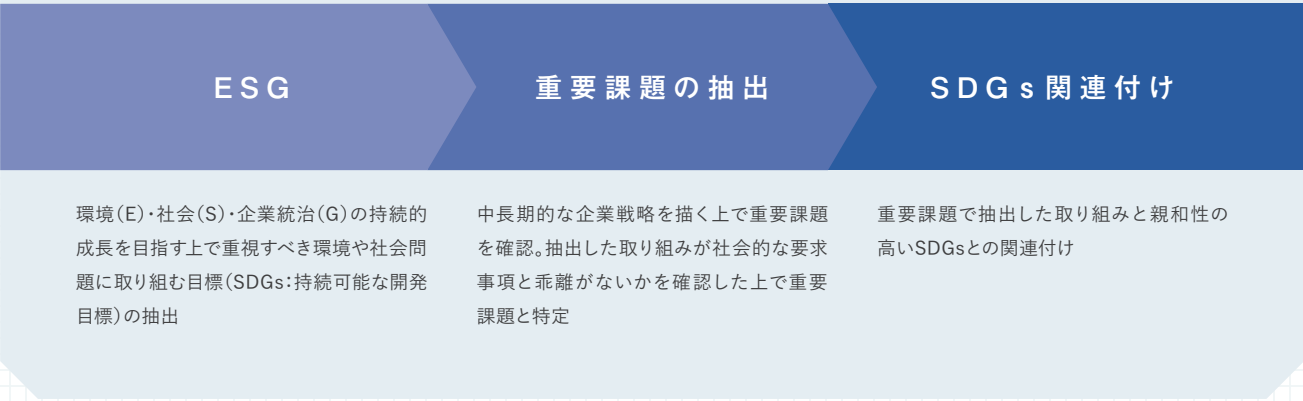
Initiative 3 トライエスプログラム

運輸部では、2017年11月から株式会社アスア様によるコンサルティングサービス「トライエスプログラム」を導入し、環境への貢献のため日々努力しています。トライエス活動の1つとして、各車両の燃費計算があります。車両に給油する度に燃費を計算し、自分の運転技術がどのように燃費に影響するのかを確認します。急発進や急ブレーキをせず、スピードエコドライブを意識することによって、安全運転に繋げる目的として取り組んでいます。エコドライブの導入により、昨年1年間でスギの木約588本分のCO₂吸収量を削減することができました。毎月1回行われるトライエスマーケティングでは、個人が抱えている課題、運輸部全体で抱える目標や取り組みの進捗状況を確認します。ヒヤリハットの提出も全員が行い、運輸部だけでなく全社に共有し、社内全体の安全意識の向上にも努めています。このように継続的にマーケティングを実施することで積極的に意見を交換し、情報の共有とコミュニケーションの強化を行い、スタッフ全員で安全運転とエコドライブへの意識を高めています。

イボキンの掲げるESGビジョン

「事業を通じた社会的課題の解決」を行う企業として、
社会に貢献するとともにグループの持続的な成長を目指していきます。

イボキングループの重要課題とSDGsとの関連付けプロセス



ESG経営を実現する重要な項目

ESG視点	重要なテーマ	関連するSDGs
環境 Environment	■ 電子マニフェスト	5 5.15.2030 9 9.12.2030
	■ コンクリート再生循環工法	11 11.2030 12 12.2030
	■ 高度循環型社会の重視	11 11.2030 12 12.2030
社会 Social	■ 熱中症対策	3 3.2030 13 13.2030
	■ 5S活動	11 11.2030 13 13.2030
	■ たつの産業ツアー	4 4.2030 11 11.2030
	■ 自衛消防競技会	11 11.2030 13 13.2030
	■ ノー残業デーの実施	8 8.2030 16 16.2030
	■ 改善提案活動	4 4.2030 8 8.2030
	■ 自己啓発支援	4 4.2030 8 8.2030
	■ ダイバーシティの推進	3 3.2030 5 5.2030
企業統治 Governance	■ 安全への取り組み	3 3.2030 4 4.2030
	■ コンプライアンス経営	8 8.2030 16 16.2030
	■ 内部通報制度について	10 10.2030 16 16.2030

SDGs

ステークホルダー目線で取り組む 社会的課題への提案

イボキングループはステークホルダーとの対話を通して、
未来に向けて何をすべきかを考え、
人類共通の課題であるSDGsの目標達成に貢献していきます。



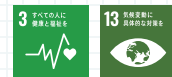
顧客（顧客満足） Client



熱中症対策

工場では終身身体を動かす作業が多く、夏場に熱がこもりやすいなどの背景があることから、チームリーダーを中心に体調管理や水分補給を徹底的に実施しています。熱中症対策用の飴やタブレットを社員だけでなくご来社いただくお客様にも配布するなど、熱中症を予防する活動を積極的に行っています。「取引先の皆さまだけではなく、働く仲間やそのご家族のためにも安全な職場環境の整備と健康管理をしっかり行いたい」という想いで、毎年熱中症対策に取り組んでいます。

関連する
SDGs



電子マニフェスト

廃棄物を処理する際にはマニフェストを発行し管理しながら、同時に電子マニフェストを導入しています。書面の紙を使用したマニフェストとは違い記入漏れや紛失の心配がなく、また集計や報告書の作成も電子化されているため管理をする上でも効率的です。電子マニフェストを導入されている企業も最近では増えてきていますが、当社は業界に先駆けて解体工事の現場においても電子マニフェストに対応しておりますので、廃棄物の管理面においても安心してお任せいただくことができます。

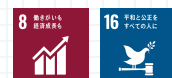
関連する
SDGs



コンプライアンス経営

イボキングループは、継続企業として収益の拡大、効率的かつ健全な企業経営に向けた目的達成、また企業価値の向上のために法令・定款・各種規程を遵守し、社会ルールに基づいて誠実に企業の経営職務の遂行を図っています。こうした経営活動が株主のみならず顧客・従業員・地域社会などから信頼され、業界・地域・社会への貢献となることを常に意識し、経営の透明性や健全性に加え、企業活動における企業倫理と法令遵守に基づき行動することでコーポレート・ガバナンスの強化・充実に努めています。

関連する
SDGs



安全への取り組み

安心して働ける職場環境を維持していくことは、企業の基本的な責任のひとつです。従業員の健康維持増進や快適な職場環境づくりを進めることも、社員の信頼に応えながら健全な経営を維持していく上で重要です。このような認識に基づいて、イボキングループでは、統括責任者(社長)のもと安全管理者、衛生管理者を定め、毎月1回「安全衛生委員会」を開催しています。安全衛生委員会では重点管理目標や活動方針などを決定し、安全衛生の確保や事故防止に向けた具体的な活動を推進しています。

関連する
SDGs



地域（地域社会貢献） Community



5S活動

地域活動の一環として毎月1回当社工場周辺の清掃活動を行っています。清掃活動を通じて、地域住民の皆さまとのコミュニケーションの活性化を図りながら、「周辺地域の美化」「社会・環境への貢献」「CSRへの参加意欲向上」を目的として取り組んでいます。

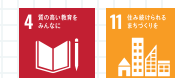
関連する
SDGs



たつの産業ツアー

2019年10月18日に龍野商工会議所様主催の「龍野産業・観光ツアー」の受け入れをさせていただきました。約30名の地域住民の方にご来社いただき、当社のこれまでの軌跡や強みなどを直接肌で感じていただける機会になったかと思います。参加者の皆さまより、「圧倒された」「工場がとても綺麗で驚いた」などの嬉しい言葉も頂戴し、当社としてもより一層の励みになりました。今後も地域住民の皆さまに信頼いただける企業で在り続けられるよう、精進してまいります。

関連する
SDGs



自衛消防競技会

2年前より、地域企業が集まり防火訓練を競い合う、たつの防火協会主催の「自衛消防競技会」に参加しています。この競技会は、消火器や屋内消火栓を使用した競技を行い、事業所内で火災が起こった場合に迅速に消火活動ができるよう、消火技術の向上と防火意識の高揚を図ることを目的に実施しています。毎年参加することで、社員の防災意識の向上、また地元企業様との交流を図っていききたいと思います。

関連する
SDGs



社会（経済価値・ガバナンス） Society



1
2
3
4
コンクリート再生循環工法

大手電機メーカー研修施設解体

SRC構造の大型研修施設の解体です。お客様は解体跡地にメガソーラー発電所を建設予定とのことでしたので、当社からの提案で「コンクリート再生循環工法」を行いました。解体から発生した廃棄物を有効に活用することで、大量のコンクリートガラの産廃処理が不要になり、またメガソーラー建設用の新しい砕石の調達も不要となり、環境面・コスト面ともに大きなメリットがありました。解体は都市鉱山（資源）の採掘です。知恵を絞ってより良い提案をし、お客様と共に環境に貢献してまいります。

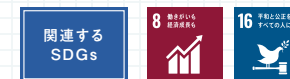


従業員（職場環境） Employee



ノー残業デーの実施

当社では、毎週水曜日を「ノー残業デー」としています。定時後の時間は、家族と過ごしたり、趣味や余暇、スポーツを楽しんだり資格取得に取り組むなど、従業員それぞれが有意義に使うことで、仕事とプライベートのワークライフバランスを保つために実施しています。会社全体に改革をもたらし、さらには相乗効果をもたらす。そんな仕組みづくりや風土づくりに取り組んでいます。



改善提案活動

社員のコストダウンに対する意識、意見やアイデアを積極的に活用するため、全社員（パート、アルバイト、派遣社員も含む）を対象に、業務改善制度を推進しています。「安全向上」「業務効率」「職場環境」に繋がるアイデアを社員自らが提案し、各上長が評価を行い、毎月1回審査結果を公表し、報奨も行っています。改善活動を通じて、仕事の質を上げ、負荷を下げることで余裕を生み、社員一人ひとりの力を結集させることで、企業体質を強化していきます。



高度循環型社会の重視

事業を通じてより多くの金属スクラップ及び廃棄物を再資源化することが、持続可能な社会づくりの一端を担う大切な役割です。イボキングループでは、スクラップを年間約8万トン、廃棄物を年間約3万トン取り扱っており、再資源化率は約92%となっています。経営目標である取扱数量増加及び高い再資源化率の実現により高度循環型社会の構築を目指します。



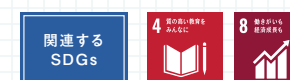
内部通報制度

内部通報制度は、当社の社員等から、組織的または個人的な法令違反や不正行為に関する通報または相談を受け付けるための制度です。また、通報または相談を行った社員等がそのことにより不利益を被らないように、当社の規程等によって保護される制度としております。イボキングループ全体としてのリスクマネジメントおよびコンプライアンスの強化を推進すべく、リスク認識に基づいたより実効的なコンプライアンス体制を構築し、施策を継続的に実施します。



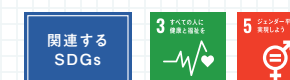
自己啓発支援

社員への自己研鑽の機会を提供し、一人ひとりの能力とモチベーションの向上を支援するため、資格取得支援制度を設けています。「企業は人なり」という言葉があるように、社員の能力やスキルの向上があってこそ会社の発展に繋がると考えています。そのため、講習や試験の受講料の全額を支援しています。



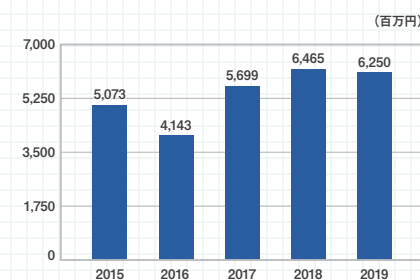
ダイバーシティの推進

イボキングループ経営理念のひとつである「社会の平和と発展を願うお客様の喜びと社員の物心両面の幸福を追求する」を実現・継続するには、社員一人ひとりがそれぞれの個性を活かしながら活躍できる組織の仕組みづくりが不可欠です。このような組織を実現するため、まずは女性の活躍を重要な施策のひとつとして推進しています。当社の管理職に占める女性の比率は14.3%となっており、さらに女性の働きやすい職場環境の拡大に取り組めます。

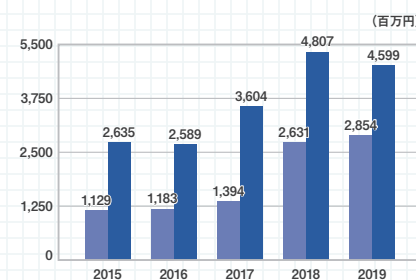


回次		第32期	第33期	第34期	第35期	第36期
決算年月		2015年12月	2016年12月	2017年12月(連結)	2018年12月(連結)	2019年12月(連結)
売上高	(千円)	5,073,010	4,143,707	5,699,920	6,465,913	6,250,705
経常利益	(千円)	164,575	91,345	277,693	317,279	350,877
当期純利益	(千円)	39,592	45,777	200,006	223,282	281,547
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	—	—	—	—	—
資本金	(千円)	40,000	47,500	47,500	130,598	130,598
発行済株式総数	(株)	800,000	810,000	810,000	1,713,600	1,713,600
純資産額	(千円)	1,129,475	1,183,599	1,394,655	2,631,343	2,854,428
総資産額	(千円)	2,635,484	2,589,719	3,604,274	4,807,574	4,599,612
1株当たり純資産額	(円)	1,411.84	1,041.90	1,227.69	1,535.66	1,671.78
1株当たり配当額	(円)	—	—	—	27.00	30.00
(うち1株当たり中間配当額)	(円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益	(円)	49.49	40.96	176.06	163.03	164.33
潜在株式調整後1株あたり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	42.86	45.70	38.69	54.73	62.06
自己資本利益率	(%)	3.6	4.0	15.5	11.1	10.3
株価収益率	(倍)	—	—	—	9.1	17.2
配当性向	(%)	—	—	—	16.6	18.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	53,193	434,649	425,791	259,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	△59,941	△53,910	△190,670	△471,371
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	△24,990	48,232	836,102	△321,095
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	—	210,128	639,098	1,710,321	1,177,208
従業員数	(人)	96	92	123	132	146
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)

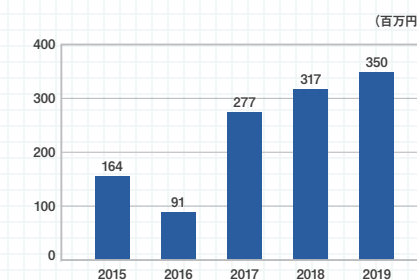
◆売上高



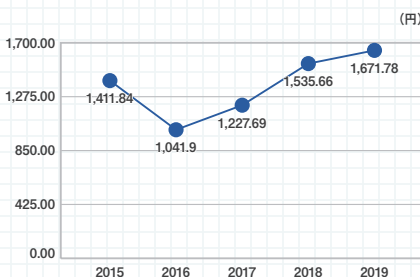
◆純資産額／総資産額



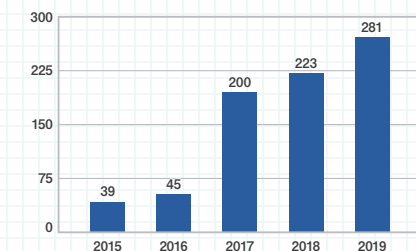
◆経常利益



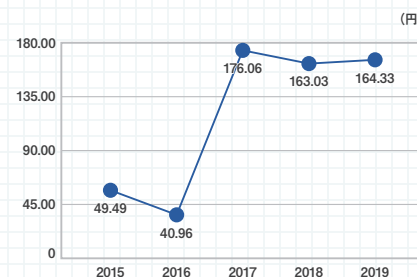
◆1株当たり純資産額



◆当期純利益又は親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



◆1株当たり当期純利益



注)1.当社は2017年12月期より連結財務諸表を作成しております。2016年12月期以前は単体の財務諸表の数値を記載しております2.当社は、2015年12月19日付で普通株式1株につき、1000株の株式分割、2018年3月30日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、第31期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出した場合の1株当たり純資産額及び1株当たり当期(四半期)純利益金額を記載しています。
注)2.「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第36期から適用しており、第35期総資産については、当該会計基準等を選定して適用した後の数値となっております。



会社概要

Company Profile

社名	株式会社イボキン
本社	兵庫県たつの市揖保川町正條379番地
代表者	代表取締役 高橋 克実
設立	昭和59年
資本金	130百万円
年商	6,250百万円(令和元年12月期)(連結)
従業員	(連結)146名(単体121名)
事業所	■本社工場 ■龍野工場 ■阪神事業所 ■東京支店 ■PMR工場 ■最終処分場

営業品目	1. 鉄、非鉄スクラップ収集運搬、加工、リサイクル 2. 一般廃棄物の収集運搬、中間処理 3. 産業廃棄物の収集運搬、中間処理及び最終処分 4. 特別管理産業廃棄物の収集運搬 5. 自動車リサイクル 6. 建築物解体工事 7. プラスチック・ペレットの製造 8. 高度管理医療機器等の売買及び貸与
------	---



工場・事業所

Factory, Office



本社工場(環境事業・解体工事部)

〒671-1621
兵庫県たつの市揖保川町正條379番地
TEL 0791-72-3531 FAX 0791-72-2639



龍野工場(金属事業・ELV部門)

〒679-4155
兵庫県たつの市揖保町揖保中198-1
TEL 0791-67-2525 FAX 0791-67-2828



阪神事業所

〒660-0095
兵庫県尼崎市大浜町1丁目31-1
TEL 06-6411-3300 FAX 06-6411-3307



PMR工場(PMR部門)

〒679-4155
兵庫県たつの市揖保町揖保中341番地
TEL 0791-72-3531 FAX 0791-72-2639



東京支店

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-16-11-303
TEL 03-3254-2525 FAX 03-5294-2525



株式会社国徳工業(グループ会社)

〒590-0984
大阪府堺市堺区神南辺町1-54-1
TEL 072-225-1701

環境方針

当社は、資源の少ない我が国に於いて、再生資源製造業者として最先端の技術力、ノウハウ、安全性を追求し、持続可能な資源の有効活用を通じて社会に貢献する。
当社は、日本の美しい自然環境を未来に残し、「もったいない」の心を社会に広げることを使命とする。
本方針は一般に公開する。

- 1 環境関連の法規制並びにその他の要求事項を徹底順守する。
- 2 解体、分離、選別技術を研鑽し、リサイクル率の向上に努め、廃棄物の製品化による自己完結型のリサイクルを目指す。
- 3 製造技術、流通システムを研究開発し、より良いサービスを広く提供する。
- 4 定常業務はもちろん、非定常業務及び事故等の緊急時においても汚染予防を徹底する。
- 5 本方針遂行のため、環境目標を設定し、必要に応じて見直し、環境パフォーマンスの向上のため、環境マネジメントシステムの継続的改善を推進する。
- 6 当社環境方針に沿った行動を行うように、全従業員及び当社の為に働く全ての人に周知する。